

大学が消える街

箱崎は今

都市部から郊外に大学が、さんは宮崎大の旧キャンパス移り、キャンパス跡地周辺、ス跡地に宮崎公立大学が開校し、飲食店などの減少が上、スーパーや商店は約二割減った。一九八〇年代から移転が進んだ広島、宮崎両大学を対象にした調査は、地域に及ぼす深刻な影響を浮き彫りにした。

跡地利用地元の声を

調べたのは、九州大学工学部建築学科四年の東江真人さん(三三)福岡市東区箱崎。目の前で九大移転が進むことから、自分の卒業論文のテーマに大学キャンパスの跡地対策を選んだ。

大学が去った街の急激な衰退を心配する一方、東江

◆ 4

シアにも貢献できるような場所にした」と訴えた。住民たちは熱っぽく市に訴えた。

東箱崎校区自治会連合会と隣接する箱崎小学校区は、二〇一九年の箱崎キャンパス移転完了を見据え、性化に期待する。「大学が

〇三年に跡地利用検討委員会を設置。活用策を模索してきた。「大学が切り売りされる

「大学が切り売りされる」と、地元のまちづくり

と『箱崎の顔』がなくなる」協議会(まち協)会長井上「なじみある建物や緑を残してほしい」。検討委は、

住民の意見を踏まえ、四十六万平方メートルの跡地を公有地として二体活用し、防災研

らはまち協を設立し、十年かけてまとめた「まちづくり計画」に公園や広場、文化施設を誘致する跡地利用案を盛り込んだ。



九州大学箱崎キャンパスの跡地利用を話し合う東箱崎校区九大跡地利用検討委員会のメンバーたち

活路